

平成 29 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人清風会	代表者	森 崇文	法人・事業所の 特徴	医療法人ということで法人内の医療機関（在宅支援診療所・地域包括ケア病棟）、在宅介護サービス施設、居宅介護支援事業所との連携が取りやすい。法人スローガンが「住み慣れた町で一緒に自分らしく」でありこれを実現できる仕組みができています。このメリットを生かしながら、一人暮らしでも地域で長く暮らしていけるように、訪問介護支援に力を入れている。また、近隣の介護施設やクリニックとの連携を密に行い、医療と連携が取れる安心感を持っていただける事業所である。
事業所名	あかるい農村つやま	管理者	小椋 美恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	3人	0人	0人	1人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	前回できなかった、項目に関して再度、具体的方法を再検討して取り組んでいく。	一人一人の利用者さんに担当者を付け意識することで、各個人の目標や問題発生時の話し合いが、こまめに出来た。地域に各利用者さんが出ていけるように支援することが十分できなかった。前回評価より、“できている”評価が多かった。	おおむねできている。評価項目の難しい言葉や内容は良くかみ砕いて理解して職員へ周知することが必要。	利用者さんとのコミュニケーション能力アップを図りながら、普段のコミュニケーションの中から利用者さんを理解し知っていくスキルを磨く。評価項目の中で、わからないと回答する人がないように、言葉の意味内容に関して十分勉強していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	6月ごろアンケートを実施し、より良い環境になるように取り組んでいく。	7月にアンケートを行った結果、十分満足していただけてない点が見えた。アンケートを取ることで率直な意見がうかがえ参考になった。	事業所の環境は良いので、居心地は良いと感じる。看板が傷んでいるのでわかり易く修理した方が良い。	更に居心地よい環境を目指していく。毎年6月から7月時期を目標にアンケート実施は継続する。アンケート内容についても再検討し改善につなげるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域への広報活動を積極的に行い地域の方と交流できる行事を考えていく。	毎月欠かさず、スマイルカフェを地域に向けて実施した。地区の老人会総会で事業所の紹介をしたことで、毎月のボランティアや、カフェに来てくださる方ができた。	地域の方はほとんど知っており認知度は上がっていると思う。地区の行事へも積極的に参加している。	地区の方との交流、周辺事業所との交流を積極的に図る。地区のケア会議に積極的に参加し職員全員が交代で参加できることを目標とする。地域の状況をよく把握し意見交換できるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	“ごんごノート”の活用をして、各担当者が地区へ出向いていくように取り組む。利用者さんに必要な地域の資源を活用できるように取り組む。	担当者意識が定着してきたが、個人を必要な地域活動参加へつなげるところまではできなかった。	利用者さんに関心をもって、生活を見ていくことで、地域へつながる意識も持っていける。	訪問の目的を家事援助にとどめることなく、人によっては地域につなげることに転換して行く。職員は地域の人と積極的に関わっていくように努力する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ご家族やご本人の声を反映できるように、会議の参加を広く呼び掛ける。	家族さんの参加、スタッフの参加が少なかった。	地域の困りごとや、包括支援センターからの依頼者に対して利用につながりなくとも、もう少しアプローチしてもらえると助かる。意見交換はできていると思う。	家族会を作り、家族の方参加を増やす。また他の小規模事業所との交流を行っていき他の事業所の良い点を取り入れる。スタッフの参加も増やしていく。日時を検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害訓練時、地区の方へ、参加をお願いし、地区と共に防災を考えていく。	防災訓練などに参加していただく取り組みができなかった。	地区としても行っていきたいところではあるができていない。	防災、災害対策を地域の方と共に考えていき、協働して訓練ができるようにする。まず具体的に計画を立てる。